

私は、札幌生まれ札幌育ちで平成8年に入社後の18年間、河川を主体としたコンサルタントに勤務し河川構造物に関する設計業務に携わっています。

入社当初、河川構造物の設計は私に向いていないのではないかと考えたりしましたが、仕事を学んでいくと計画から工事まで一連係わることができると内容であることがわかり魅力を感じてきました。

ここ10年ほど前までは新設に関する業務が多く、維持管理に関する課題は比較的軽視されていたように思いますが、個人的には興味があり特にコンクリート構造物の補修・補強について勉強し資格を取得したり数少ない業務に参加してきました。今振り返ると大学卒論テーマでもコンクリートを選んでいたようにコンクリート構造物と縁があるのかなと感じます。

技術士の資格は、平成23年に建設部門で受験しました。周囲の予想に反し「河川、砂防及び海岸・海洋」よりも先に「鋼構造及びコンクリート」を受験し、今までに2部門取得することができました。

技術士資格の取得は他の資格勉強と比べて異質であり、自分のがんばりだけでは厳しく上司や先輩技術士の厚いサポートや家族の理解協力が重要だと痛感しました。いまでも感謝しています。

現在の自分自身、技術士としてまだまだ未熟者であり更なる継続研鑽を行うとともに、後輩技術者へのサポートや教育も進めていかなければならないと考えております。また、日本技術士会北海道本部などの活動に参加し、私なりに諸先輩の築き上げてきた技術・活動を継承しつつ新たな取組みを追加し微力ながら北海道(及び技術士)の活性化に寄与していきたい所存です。

## 樫 直樹 (つばき なおき)

●建設/総合技術監理部門

### 勤務先

株式会社北海道水工コンサル  
タンツ 技術部



→次号は、鈴木悟さん(建設/衛生工学部門)

私は岩手県花巻市で生まれ、2歳になる少し前に札幌にやってきました。両親は共に岩手の人で、父が盛岡、母が花巻の出です。私が小学生の時、母は必ず夏休みに帰省したので、その頃の楽しい思い出のほとんどは花巻、盛岡とその周辺に集約されます。このため私の原風景は岩手にあります。

花巻は明治の終わりから昭和の初めにかけて傑出した文学の才能を世に出しました。宮沢賢治です。賢治の童話の舞台となるイーハトーブは「夢の国」としての岩手県であり、彼の心象風景を具体化したものです。この心象という点では私が抱く岩手県のイメージと重なり、彼の物語がより身近なものに感じられます。ちなみに私の祖父は、賢治と共に花巻から旧制盛岡中学に入学した同級生でもあります。

宮沢賢治が生きた時代、東北では地震や津波、あるいは異常気象による冷害などの自然災害が多発していました。このような中、賢治は教師または農業指導者として災害に苦しむ農民たちに寄り添います。地質学を修得していた賢治は、彼の作品「グスコブドリの伝記」の中で火山災害や異常気象に立ち向かう地質技術者の姿を描きました。ここには自然エネルギーの活用も出てきます。イーハトーブでは、現在われわれが抱えている課題(自然災害やエネルギー問題)への解決策が、賢治が考える人の生き方・科学の在り方が理想という形で実践されたのです。これが時代を突き抜ける賢治の想像力です。

近年の度重なる自然災害、この災害から身を守るには自分の居る場所が(地形や地質の上で)どこかを知ることが重要になります。地質技術者は地盤の調査・解析を行うだけでなく、自分の知っている地盤の情報を分かりやすく広く発信するという役割も持つべきであると考えます。現実世界では賢治が描くような理想の実現は難しいですが、理想と現実をつなぐ役割として情報の持つ力を十分に発揮させるため、われわれは次にやるべきことを考えていく必要があるのではないかと考えています。

## 長岡 大輔 (ながおか だいすけ)

●応用理学部門(地質)  
●建設部門(土質及び基礎)

### 勤務先

琥珀舎  
<http://kohakusha.net/>



→次号は、阪田義隆さん(建設/応用理学部門)